

映画の小箱

時を経ても失われることのない、
幼い日々の輝きが
胸によみがえる

『Dear フレンズ』 人生はいつも 輝いている

金丸弘美=文

text by Hiromi Kanamaru

ユウエンリー=写真

photographs by Yuen Lee

子供の頃の時代に旅をしてみたいと思うのは、誰しも考えることだろう。それは、子供の頃には夢見たこと、初めて体験したこと、驚いたことすべてを、豊かに享受していたのに、大人になって初めて、大人になることによって失ったものがたくさんあることを知るからなのかもしれない。そして子供のときには、すべてに時間が満ちあふれていたと想っていたのが、大人になると、時間が次々と過去になってしまうのだと、気がつくからなのだろう。不思議と、子供の時間というのは、とてつもなく永遠であったかのような気がするものだ。人はどんなささいなことにでもゆったりと時間が流れていた、冒険だった時を取り戻したいと思うのかもしれない。

しかし二度と戻らぬ時があるとは分かったときに、いっそう子供時代の自分自身が愛くるしく思え、いとおしさが増すのだろう。

『Dear フレンズ』は、四人の女の子が大人になってそれぞれの道を歩んだ後に、再び故郷インディアナ州シエルビーの小さな町で再会する物語である。

出産を控えたクリシー（リタ・ウィルソン

は、小さな頃、仲がよかった三人の仲間を呼び寄せた。クリシーは、子供の頃、四人で誓った「誰かが呼んだら、故郷に帰る」と言ったことを実行したのだ。

クリシーの呼びかけに、故郷に戻ってきたのは、医者の子ロバータ（ロージー・オドネル）、作家になったサマンサ（デミム・ア）、そして女優のティナ（メラニー・グリフィス）だ。四人は久々の再会に戸惑うが、木の上に作られた小さな家、ピンクのツリー・ハウスに入ったときに、たちまち、二十五年前の一九七〇年の夏の、十二歳の子供時代にトリップしてしまう。ツリー・ハウスが、まるでタイムマシンのように。ツリー・ハウスは、四人が十二歳の子供のときに協力してお金をためて購入したものなのだ。

仲良し四人が、自転車で美しいパステル・カラーの家々から飛び出してくるところから物語は始まる。四人が住んでいる町は、どうやらアメリカの新興住宅地らしい。美しい木造の白やスカイブルーの家がどこまでも並ぶ。自転車で飛び出すと、やはり自転車に乗っていたはずの子の男の子たちが、彼女たちに色水の入った風船を投げつける。男の子たち



にとつては、四人組の女の子が、格好のからかう相手なのだ。

四人の女の子たちは、いつも一緒だ。四人の目標は、一緒に遊ぶツリー・ハウスを貯金して購入することだ。そんな彼女たちが、お墓で霊を呼ぶ儀式を始めた。昔、町で同じ歳に事故で死んだ男の子を呼び寄せようというのだ。だが霊はこなかった。しかし彼女たちは、男の子がなぜ死んだのか、調べようとする。事故の記事を探しに、自転車に乗って、隣の図書館へとかける。

初めて経験する仲間との大冒険だ。四人は途中の湖で泳いだ。ロバータは湖に飛び込み、溺れたふりをしてみんなを慌てさせる。ジョークだと分かったときに、クリシーは、ロバータを思いきりぶった。真剣に心配したのだ。その真剣ぶりに、みんなは、おとなしいクリシーを見直した。その後いたずらっ子たちが湖で裸で泳いでいるのをみつけ、洋服を取り上げて、四人はいたずらの復讐を果した。

図書館でロバータは自分の母親が事故で死んだときの記事を見つけて、泣いた。

図書館の帰路、四人はベトナム帰りの男に

会って、もらった煙草を吸ってみた。

図書館までのちよつとした旅だったが、彼女たちには初めての出来事ばかりだ。

そんな冒険を四人はしたが、彼女たちはそれぞれにいろいろなことに出会う。

サマンサは、両親が離婚することを知って悲嘆にくれる。慰めたのはティニー。「十年後には人口の半分は離婚するってよ」。

ティニーは、サマンサに一生の親友の誓いをして、プレスレットの半分を彼女に渡した。

ロバータはいたずらっ子の男の子とキスをした。男の子は彼女が好きだったのだ。彼女も彼が気になっていた。初めてのキスの後、照れたロバータは「このことを兄弟に言ったらぶつとばすわよ」と、彼に言った。

そんなひと夏の事件が彼女たち四人の忘れられない思い出を織りなす。一生のきずきとなるのである。

この四人の女の子の思い出と、七〇年代のカラフルな色を基調にしたファッションと音楽が、とても素敵だ。

『Dear フレンズ』

(米/ギャガ・ヒューマックス) Dear Friends 1995年

監督=レスリー・リンカ・グラッター

出演=ギャビー・ホフマン/
ソーラ・バーチ/クリスティーナ・リッチ/
アシュレイ・アストン・ムーア
デミ・ムーア/メラニー・グリフィス

10月下旬より、東京・ニュー東宝シネマ1ほかにて上映

